毎日ねこ新聞

2026年
7月1日
水曜日

発行所
毎日ねこ新聞社

発行人
飼主

【無料】

公共物にスプレー、猫逮捕

無警戒の時間を狙ったか

東京都内の寝室ベッド付近で、公共寝具が汚損される事件があった。現場付近にいたミィ容疑者は、住民によりその場で逮捕された。警察は、住民が無警戒だった時間帯を狙った犯行とみて調べを進めている。

調べによると、事件があったのは日中から夕方にかけて。住民が業務中で、寝室付近への警戒が手薄になっていた時間帯に発生したとみられる。住民が寝室のベッド上で異臭および湿り気を確認し、現場付近をミィ容疑者が不自然に歩き回っていたため、逮捕となった。住民は「これで三度目です。警備の隙をつかれました。布団は洗えません。どうしたらいいのか」と憤りをあらわにした。近隣住民からは「またか」「寝室区の治安が悪化している」など不安の声も上がっており、再発防止を求める声が強まっている。

ミィ容疑者は取り調べに対し、「覚えていない」「そこに布があった」といった供述を続けており、時折、餌をねだるなど反省の色は見られない。警察は、トイレ環境や寝具への執着、飼主への不満など複数の動機があるとみて、余罪を含めて慎重に調べている。住民側は当面、寝室区への立ち入り制限に加え、防水対策や就寝前後の巡回強化を急ぐ方針だ。

逮捕直前のミィ容疑者

特別インタビュー

～あの人はいま～

インタビュー
第４回
羽根枕

かつて寝室で住民の睡眠を支えていた、高級羽枕の枕氏。現在はその役目を終え、部屋の片隅で静かに過ごしている。過去に二度、スプレー被害を受け、枕としての使用継続は困難と判断されたためだ。今回、布団氏が被害に遭ったことについて、こう語る。

枕氏（以下、枕）は「驚きはありません。あの現場では、誰が被害を受けてもおかしくなかった」と淡々と言葉を紡いだ。

――今回の件で、布団氏にかけたい言葉はありますか。

枕「まずは乾いてほしいです。それ以上の言葉は、今は軽くなってしまう気がします」

――現役を離れて、寝室を見る目は変わりましたか。

枕「変わりました。今は少し離れた場所から、寝室全体を見ています。現場にいたころは、自分のことで精一杯でしたが、離れてみると、寝具というのはなかなか過酷な職場だったのだと感じます」

――今後の予定は？

枕「廃棄予定とは聞いていますが、まだ呼び出しはありません。ここにいる以上、寝室を見守っていきたい」

二度の被害を経た枕氏の言葉は、寝室地方の厳しい現実を物語っている。

本日の寝室地方

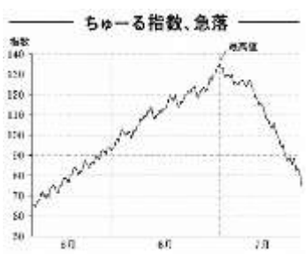
布団付近で大雨の見込み

都内は日中、寝室地方を中心に荒れ模様となる見込みです。布団付近では大雨と局地的な湿り気が観測され、住民の怒り指数は一時高くなるでしょう。夕方にかけて洗濯前線が通過し、シーツ・カバー方面では作業量が増える予想です。洗えない布団山地では不快指数が高く、換気と距離の確保が必要です。なお、猫の動き次第では、警戒区域が寝室全域に拡大する可能性があります。深夜には雨は収まるものの、寝室地方ではしばらく警戒感の残る天気となるでしょう。住民は早めの気分転換と、無理のない復旧作業を心がけましょう。

ちゅーる指数、最高値圏から急落

先月最高値を記録した「ちゅーる指数」が、今月に入って急落した。カリカリ変更への不満から、猫側のちゅーる要求が高まり、指数は上昇を続けていたが、飼主側が追加介入に踏み切った。新たなカリカリを導入したことで、猫側の不満は急速に沈静化。食事時の抗議行動も減少し、新カリカリへの食いつきは堅調に推移している。

これを受け、市場では「当面、ちゅーる需要は落ち着く」との見方が広がっている。一方で、猫側の嗜好は変動しやすく、関係者は「現在の安定が長期的に続くとは限らない」と警戒を緩めていない。飼主側は今後もカリカリの安定供給を図り、過度なちゅーる依存を避けたい考えだ。



ねこねこ避難先☆占い

今週のラッキーはおうし座

☆今週一番ラッキーなのはおうし座！
ラッキー避難先は押し入れ。暗くて静かな場所で、じっくり運気を寝かせましょう。
二位はしし座！
ラッキー避難先は洗濯かご。ふかふかの布に囲まれて、気分は王様。取り込み時の強制移動には注意して。
第三位はやぎ座！
ラッキー避難先は新聞紙の上。大事な情報を体で受け止めると、思わぬひらめきがあるかも。
★今週アンラッキー第三位はおとめ座のあなた！
避難先をベッドにするのは危険。住民の警戒が強まっており、即時退去を求められる可能性あり。
アンラッキー第二位はいて座！
洗濯機前での待機は控えて。住民の復旧作業に巻き込まれ、気まずい空気が流れそう。
アンラッキー第一位はさそり座！
残念でした！避難先を選びすぎると、どこにも落ち着けない一週間に。今日はソファの端で妥協すると吉。
その他の皆さん☆避難は早めに、気まぐれはほどほどに！
シーユー！

いぶき

猫と暮らすことは、得難い喜びである。足に触れる尻尾、空を見つめる眼差し、こちらの都合お構いなしの早朝の鳴き声。それらは日々の暮らしに、言葉では測れない温度をもたらす。

●しかし、温度と湿り気は別のことである。睡眠は生活の根本であり、布団はその最後の砦だ。砦が破られたとき、住民の心に広がるものは、怒りであり、悲しみであり、そして少量の虚無である。

●猫はかわいい。だが、かわいいことと、困ることは同時に起こる。愛情は万能ではない。愛情があっても、洗えない布団は洗えないのである。

●求められるのは、猫用トイレの見直し、寝室区の警備強化、防水対策、そして住民の睡眠権の回復である。猫を愛することは、すべてを黙って受け入れることではない。

●本紙は改めて訴えたい。猫はかわいい。だが、睡眠も尊い。そして布団は、できれば乾いていてほしい。

制作　田嶋圭　© 2026 Kei Tajima